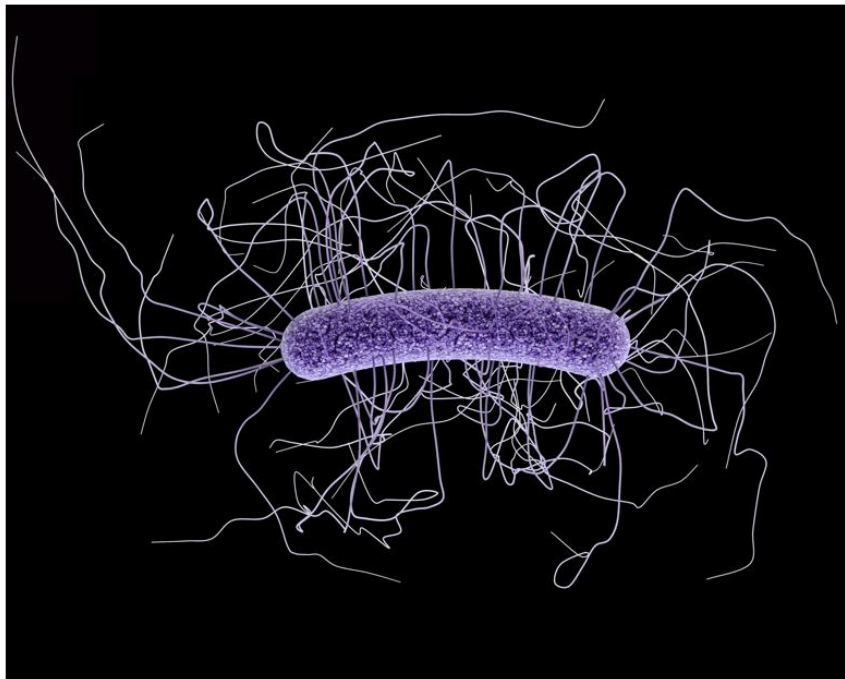


クロストリジウム感染症とは

クロストリジウム・ディフィシル

(*Clostridium difficile*, *C. difficile*) は、
2種類の外毒素（*C. difficile* トキシン A
および B）を産生します。



クロストリジウム感染症（CDI）の主な原因としては、抗菌薬の不適正な使用などが上げられます。抗菌薬によって正常な腸内細菌叢が乱され、*C. difficile*が定着してCDIが生ずるとされています。



主な症状は、下痢、発熱、腹痛など。大腸粘膜に偽膜を形成したり、巨大結腸症を引き起こすこともあり、場合によっては致死的な重症に至る危険性も指摘されています。



CDI は再発しやすい疾患であり、海外の報告では CDI を発症した患者の約 25% が再発し、そのうち 45~65% が 2 回以上の再発を繰り返すとされています。特に、CDI 既往歴のある患者、高齢者、免疫不全患者、重症の CDI 患者では再発リスクが高いとされています。



診断には、便の CD トキシン A/B 迅速検査や便の嫌気培養などを行います。



治療は、抗菌薬を中止し、中等症以上の場合は、メトロニダゾールまたはバンコマイシン散の10日間内服投与を行います。

